あえのことに熱視線

奥能登各地 学識者やツアー客続々

厳かな雰囲気「興味深い」

農耕儀礼「あえのこと」が5日、奥能登各地で行われ、全国から多くの学識者らが調査や視察に訪れた。国連教育科学文化機関（ユネスコ）の無形文化遺産登録や世界農業遺産認定など文化的評価が高まり、今年は北陸新幹線金沢開業によるPR効果も手伝って、例年にも増して注目を集めた。目に見えぬ田の神様をもてなす厳かな雰囲気を体験した学識者らは、素朴な奥能登の風土を肌で感じ取った。

田の神様をもてなす田中さんを見守る学識者や見学者
＝珠洲市若山町火宮

珠洲市若山町火宮の田中茂好さん(63)宅では、日本宗教民俗学会による奥能登で初めての現地調査に参加したメンバー18人が、地元の若山公民館の一行や多くのカメラマンとともに、夫婦の田の神様をもてなす田中さんの所作を見守った。

儀式を終えた田中さんにメンバーは、儀式の起こりや料理の内容について質問し、田中さんや、同学会委員の西山郷史さん＝同市＝が解説した。西山さんは、田中家の主人が儀式を執り行うのは茂好さんが4代目となり、「以前は、中能登町の石動山の山伏が指導役として関わった可能性がある」と指摘した。同日夜には、西山さんが能登の宗教民俗について講演した。

同市若山町洲巻の向文雄さん(79)方には、県内外から国連大学サステイナビリティ高等研究所いしかわ・かなざわオペレーティングユニットの学識者や、地域文化の学習ツアー「シニア短期留学in金沢」の一行ら約30人が訪れ、儀礼の様式などを学んだ。

学習ツアーに参加した奈良市の長尾明美さん(68)は「田んぼの神様を大切にする土地柄や風習が魅力的だった」と振り返り、同ユニット研究員の飯田義彦さん(39)は「あえのことが日常の暮らしに溶け込んだ儀式であることを実感した」と話した。

能登杜氏を題材にしたドキュメンタリー映画「一献の系譜」（北國新聞社特別協力）の撮影地を巡る石井かほり監督とツアー客10人も見学した。東京都港区の会社員畔柳伸さん(45)は「人と自然と神様の関係が興味深かった」と語った。

能登町天坂の井下勉さん(68)方では、同町と金大による調査の一環で、同町の金大人文学類4年の虫明慧子さん(22)が儀礼を見学した。今後も旧柳し、卒業論文に金大は2010カ年計画で儀礼べている。今年昭和50年代の儀た報告書を作る